



医師四年目を迎えた春、基幹病院での研修を終えた私は、内科医として常勤医四人の病院での勤務を始めました。それまでは上級医に相談できる環境で患者さんの診療をしていましたが、一人で新患外来を診て、自分の責任下で検査を行うことになったのです。

## 精神的な何かが

基幹病院勤務とは違ったストレスを抱えながらの診療でした。なお、現在は臨床研修制度により、このようなことはありません。毎日の外来・検査、入院患者さんの診療などで、周りを見渡す余裕もなかったかもしれません。

# 地域医療体験の機会を提供

その病院で少しずつ始まった訪問診療にも携わることとなり、患者さんの自宅に伺って診療を行うわけですが、それは今まで知っていた病院の中の診療とは全く違ったものでした。

おお 太田 ぎゆう 求磨 20期生、1997年卒



地域医療の体験で、学生たちが雪の中を歩き患者さんの家へ向かう。「地域医療のイメージが変わった」と学生

## 新潟大医歯学総合病院地域医療教育支援コアステーション

【私の勤務地】2005年11月に新潟大学として、地域医療を教育・サポートするために大学病院の中に設置された。医学部、歯学部などの学生の教育、研修医の地域医療研修や地域医療病院のサポートなどを行っている。活動内容は同コアステーションのホームページ(<http://nuh.niigata-u.ac.jp/cor/index.html>)で紹介されている。

た。

寝たがりの妻を介護する夫の話や、看護師さん、自宅を寝たがりにならないように週二回訪れる理学療法士さん、食事の世話や入浴の手助けをするヘルパーさん。多くの人が携わって、患者さんの生活を支えている現場に直面したのです。

医師のみでなく、多くの人で作られたチームで医療を提供することの重要性を感じました。同時に、そんな医療（地域医療）には、医療が忘れかけているスピリチュアルなものがあるように思いました。

## 社会支える医療

今、私が行っている活動はそんな地域の医療チームの一員になろうとする学生に、地域の医療を学んでもらう環境を提供することです。私のいる新潟大学の地域医療教育支援コアステーションは、学生に地域医療を体験

してもらおう機会を提供しています。

新潟県内の地域医療を実践している医療機関の協力を得て、学生が三人から五人程度のチームになって、慢性疾患の外来診療、訪問診療、巡回診療などを経験します。

しかも、学生は医学科だけではなくありません。看護師、歯科衛生士、社会福祉士などを目指すほかの学科の学生も一緒になって、チームを組んで体験学習をするのです。学科を超えた取り組みは、学生に大きな影響を与えています。

学生たちの多くは在宅医療を初めて目の当たりにします。それまで描いていたイメージとは違っているようで、和気あいあいとした和やかな雰囲気の中で、これからの超高齢社会であるべき医療の一つの姿を、みんなが考えてくれます。社会を支える医療に携わる仲間が増えてくれるとうれしいと思う今日、このころです。

(次回予定は和歌山県)